

国語プリント No. ( )

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

## 芥川 傍線注釈

口語訳をもとに傍線注釈をしなさい。

(1) 昔、男ありけり。

(2) 女のえ得まじかりけるを、年を経て

よばひわたりけるを、からうじて盗み出でて、

いと暗きに來けり。

(3) 芥川といふ川を率て行きければ、草の上に

置きたりける露を、「かれは何ぞ。」

となむ男に問ひける。

(4) 行く先多く、夜も更けにければ、

鬼ある所とも知らで、神さへいといみじう鳴り、

雨もいたう降りければ、

(5) あばらなる倉に、女をば奥に押し入れて、

男、弓、胡 を負ひて戸口に居り。

はや夜も明けなむと思ひつつゐたりけるに、

鬼はやひと口に食ひてけり。

(6) 「あなや。」と言ひけれど、神鳴るさわぎに、

え聞かざりけり。

(7) やうやう夜も明けゆくに、見れば率て来し女もなし。

(8) 足ずりをして泣けどもかひなし。

(9) 白玉か何ぞと人の問ひしとき

露と答へて消えなましものを

《凡例》 傍線や斜線は次のように使う。

挿入するときは斜線を引く

太郎は

ずっと

それより長く、猿を射ることをばとどめてけり。

本文（古文）のある部分だけ消す場合は、傍線を引き、その右側に何も書かない。

傍線は単語で区切る

口語訳と違う部分に傍線を引き、その語に相当する口語訳を右側に書く。

しまったそうだと